

駅、商業施設、都市公園が一体となった南町田グランベリーパーク

令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」において大賞にあたる国土交通大臣賞を受賞！

官民一体で取り組んだシームレスなまちの構造が高く評価されました。

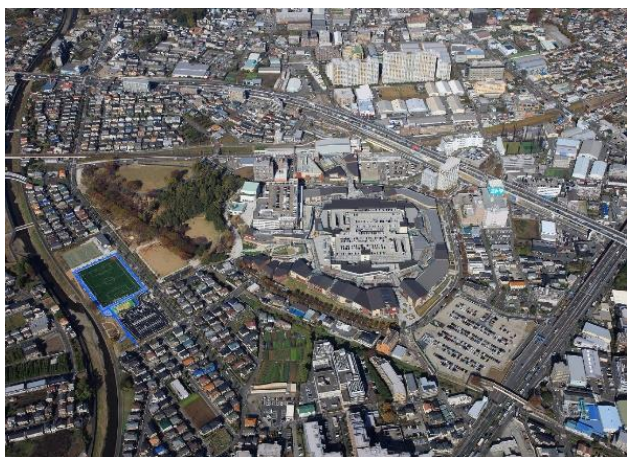
町田市、東急株式会社、東急電鉄株式会社が、連携・共同し推進する南町田拠点創出まちづくりプロジェクト(以下、本プロジェクト)のエリア内、「南町田グランベリーパーク地区」が、令和2年度都市景観大賞「都市空間部門」において、大賞にあたる国土交通大臣賞を受賞しました。

都市景観大賞は、平成3年度から「都市景観100選」として始まった、まちづくり分野における由緒ある賞で、このうち、「都市空間部門」の選定対象は、公共的空間と建物などが一体となって、良質で優れた都市景観が形成され、市民に十分に活用された地区と規定されています。本プロジェクトの、官民一体で取り組んだシームレスなまちの構造と、質の高い空間整備が高く評価され、今回の大賞受賞にいたりました。

主な評価ポイントは以下のとおりです。

主な評価ポイント

- 既存のまちの構造を全面的に見直し、官民一体となって創りあげたシームレスなまち
- 商業施設と都市公園の間に設けたコミュニティ拠点「パークライフ・サイト」
- 巧みな駐車場配棟計画により、回遊型オープンモールとした商業施設



▲「南町田グランベリーパーク」地区全景



▲グランベリーパーク内広場から見える鶴間公園方向

本プロジェクトは、田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」(2019年10月1日に「南町田駅」から改称)南側に広がる鶴間公園と2017年2月に閉館したグランベリーモール跡地を中心とする約22haのエリアについて、官民が連携し、都市基盤・商業施設・都市公園・駅などを一体的に再整備・再構築し「新しい暮らしの拠点」の創出に取り組むまちづくりプロジェクトです。

「鉄道駅と都市公園と商業施設が隣接する」という南町田ならではのまちの資源を最大限に生かして、まち全体をひとつの「パーク(公園)」として計画し、14の広場を地区全体に散りばめ、歩いて楽しいまちを構成しています。また、既存道路の配置換えを行うことで、駅、商業施設から公園までのエリア一帯を歩車分離かつバリアフリーにつなげる歩行者空間を実現しました。商業施設と公園の間には、スヌーピーミュージアムを核とした「パークライフ・サイト」を整備し、コミュニティ創生の拠点となっています。

まちびらき後、まるでひとつの「パーク」のようなこの新しいまちにおいて、お客さまに、思い思いのパークライフを満喫していただいています。今後も、商業施設、パークライフ・サイト、公園が連携した取り組みを実施することで、多世代がいきいきと暮らす、魅力あふれる持続可能なまちを醸成していきます。

以上

(参考)本日、この資料は国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、ときわクラブ、町田記者会にお届けしています。

本リリースに関するお問い合わせ先

町田市 都市づくり部 都市政策課

東急株式会社 社長室広報グループ 報道担当

TEL:042-724-4248

TEL:03-3477-6086

【別紙】

<位置図>



② 鶴間公園



④ パークライフ・サイト

- ・スヌーピーミュージアム
- ・まちライブラリー
- ・PEANUTS Cafe(ピーナッツ カフェ)
- ・子どもクラブ(児童館)
- ・ワークショップスペース



① 南町田グランベリーパーク駅

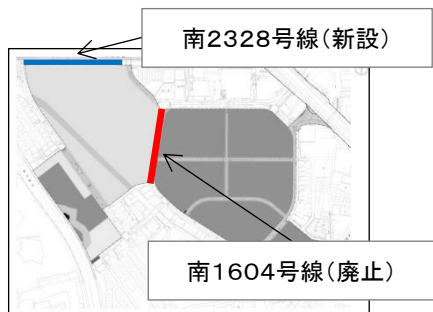


③ 商業施設「グランベリーパーク」

1. 南町田グランベリーパークにおける都市景観上のポイント

■既存のまちの構造を全面的に見直し、官民一体となって創りあげたシームレスなまち

一度計画的につくられた道路・公園などの都市基盤や整形された宅地・街区を再度の土地区画整理事業により再配置するとともに、駅・商業施設から公園までのエリア帯を、歩車分離かつバリアフリーでシームレスに繋がる歩行者ネットワークを配置することで、“歩く”ことを前提にしたウォークアブルなまちに再編し、新たな都市景観のベースを構築しました。さらに、まち全体に張り巡らされた歩行者ネットワークの要衝には、商業施設、パークライフ・サイトと公園全体で14の広場を、連続性をもって設けました。これにより、「まちのぜんぶが“パーク”となる」というコンセプトのもと、“歩いて楽しいまち”を構成することができました。



▲土地区画整理事業施行図(施行前)



▲南1604号線※2018年6月に廃止



▲パークライフ・サイト内歩行者空間

■商業施設と都市公園の間に設けたコミュニティ拠点「パークライフ・サイト」

土地区画整理事業により公園と商業街区との間の道路を再配置した後、公園と商業施設をつなぐ新しいまちの中心エリアを構築するため、町田市宅地 約5,000㎡を換地し、「パークライフ・サイト」と名付けた文化的活動の拠点を創出しました。市民・来街者の多世代が会い、学び、活動できるコミュニティ創生の拠点となることをめざし、株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツの事業参画を得て、「スヌーピーミュージアム」を核とし、図書を通じたコミュニティ醸成の場である「まちライブラリー」、児童館「子どもクラブ」など多様な機能が同居しています。また、本棚や椅子などのファニチャーに、整備に伴い公園などで伐採することになった木を活用したことも特徴のひとつです。



▲パークライフ・サイト (c) Peanuts Worldwide LLC



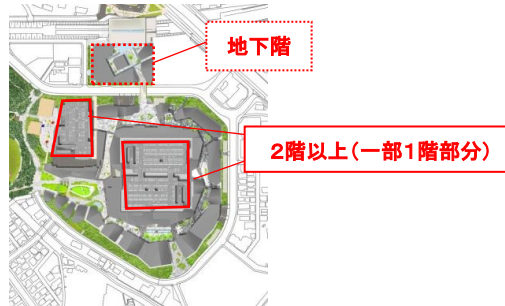
▲まちライブラリー

■巧みな駐車場配棟計画により、回遊型オープンモールとした商業施設

大規模商業施設で重要となる駐車場は、ステーションコートでは改札階より下に、セントラルコートでは広大な丘状の敷地の中心に配置することで、駅を降りてから公園へ至る歩行者に駐車場の存在を感じさせないように配慮しました。駅と公園、そして周辺の住宅地をつなぐグランベリーパークは、旧「グランベリーモール」同様オープンモール型とし、商業街区を回遊する歩行者通路に面し、低層の分棟式の建物が立ち並びます。商業街区外周部の壁面は、外周道路からセットバックさせることで圧迫感を軽減し、仕上げを自然調のデザインとしています。



▲商業施設「グランベリーパーク」通路



▲グランベリーパーク駐車場配置図

■そのほかの評価ポイント

・まちの玄関口「南町田グランベリーパーク駅」

「駅を降り立ったところから、すべてが公園のようなまち」を希求したまちの玄関口として、今回の鉄道駅舎の改良工事では、安全性や利便性の向上といった機能的更新に加え、自由通路にかかる大屋根によりシンボリックな大空間を創出し、ホームに降り立った瞬間から公園のみどりや商業施設の賑わいを感じることができる開放的な駅空間としました。

・パークライフの拠点となる「鶴間公園」

2つの広場や里山の風景が残る樹林エリア、ケヤキ並木が象徴的な水道道路などの要素構成はそのままに、全体的にリノベーションを図り、商業街区から境目なくつながる広場の拡充、既存樹や地形を活かしたデッキ・ベンチの配置による滞在性向上、身体を動かしたくなるアクティブデザインの採用、スポーツ機能の強化などにより、市民や来街者が心身ともに健康になる“パークライフ”の拠点となることを目指しました。

・まちの全体で採用したグリーンインフラ

都市型豪雨や台風への対策が求められる昨今、調整池や雨水貯留槽などの従来型の流出抑制策に加え、エリア全体にわたり、グリーンインフラによる雨水管理計画を施しました。このことは、国際的な環境認証システム「LEED-ND(まちづくり)」においても、高い評価を受けています。



▲レインガーデン(窪地状の植栽帯)

2. 応募者

町田市、東急株式会社、東急電鉄株式会社、株式会社東急レクリエーション
株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ、株式会社東急設計コンサルタント、ラグアルダ・ロウ・アーキテクツ
Fd Landscape、ティーハウス建築設計事務所、株式会社森緑地設計事務所、株式会社レジファインクリエイト

【国土交通省による記者発表(2020年6月11日「令和2年度「都市景観大賞」各賞の選定～良好な景観に資する地区・活動について、特に優れたものを表彰～」)】

https://www.mlit.go.jp/report/press/toshi10_hh_000343.html

(参考)「南町田グランベリーパーク」の概要

まち名称 「南町田グランベリーパーク(Minami-machida Grandberry Park)」
敷地面積 約22ha (うち、都市景観大賞応募エリアは約20ha)
交通 田園都市線南町田グランベリーパーク駅直結 / 東名高速道路横浜町田ICから約1分
開業日 2019年11月13日
南町田拠点創出まちづくりプロジェクトホームページ <http://minami-machida.town>
※商業施設名称は「グランベリーパーク(Grandberry Park)」

